

<p>平成 27 年 7 月 31 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>8 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

平成 27 年度茨城県農薬危害防止運動期間中 (6/15～9/14)  
～周辺環境に配慮し、土壌くん蒸後はしっかり被覆しましょう～

＜ 目 次 ＞

<p><b>I. 今月の予報</b></p> <p><b>【注意すべき病害虫】</b></p> <p>    水稻：いもち病(穂いもち)，斑点米カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p><b>【その他の病害虫】</b></p> <p>    水稻，大豆，ナン，ブドウ，果樹共通，秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫・・・・・・ 2</p> <p><b>【防除所レポート】</b>：ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・・・・・・・・・ 4</p> <p><b>II. 今月の気象予報</b>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5</p>	
<p>水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とすること。</p> <p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p style="text-align: center;">茨城県病害虫防除所   Tel : 029-227-2445</p> <p style="text-align: center;">予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;">ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/</a> フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報  
【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

① 7月下旬現在、葉いもちの発病度\*（本年値 4.2，平年値 5.6），発生地点率（本年値 58%，平年値 56%）ともに平年並である。

\* 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂直後から出穂後 14 日位までである。この期間に降雨が続く場合は，発生に注意が必要である。
- ② 穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し，上位葉に病斑が進展している水田では，防除を徹底する。

（平成 27 年 7 月 14 日発表 病害虫発生速報 No.5 参照）

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在，水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は平年よりやや多く（本年値 0.39 頭，平年値 0.29 頭），発生地点率は平年よりやや高い（本年値 21%，平年値 14%）。
- ② 7月下旬現在，本県の斑点米カメムシ類主要種であるクモヘリカメムシの水田内におけるすくい取り虫数は平年並（本年値 0.09 頭，平年値 0.14 頭），発生地点率は平年より高い（本年値 14%，平年値 7%）。
- ③ 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 成虫を対象とした防除適期は，穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 幼虫を対象とした防除適期は，出穂 10～15 日後頃（乳熟期）である。斑点米の発生防止には，この時期の幼虫密度を低下させることが重要である。
- ③ ミツバチ被害軽減のため，ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。
- ④ 周辺より出穂の早い水田では，成虫の飛来が集中する恐れがあるので注意する。また，収穫の遅い水田では，8月中旬以降に新成虫の飛来により密度が高まることがあるので注意する。
- ⑤ 水田内及び水田周辺のイネ科雑草やカヤツリグサ科雑草は，斑点米カメムシ類を誘引するので除草に努める。ただし，水田周辺の除草は水稻の出穂期近くに行くと，斑点米カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので，出穂期2週間前までに終わらせる。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：やや多い (県南, 県西地域)	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	ニカメイガ	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
大豆	紫斑病	発生量:一	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると, 発生が多くなるので注意する。県内では, チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため, それ以外の薬剤を使用する。
	カメムシ類	発生量:平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
	チョウ目幼虫	発生量:平年並	7月下旬現在, 平年よりやや少ない発生である。 向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
ナシ	黒星病	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。 向こう1か月の気温は平年より高く, 日照時間は多いと予想され, 発生を助長する条件である。
	ナシヒメシンクイ	発生量：平年並 ～やや少ない	7月下旬現在, 平年並～やや少ない発生である。
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
	べと病		
果樹共通	チャバネアオカメムシ	発生量：少ない	7月下旬現在, 平年より少ない発生である。

作物	病虫害名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在, 夏ネギにおいては平年並の発生である。 向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
夏秋ナス	ハダニ類	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。 向こう1か月の気温は平年より高く, 日照時間は平年より多いと予想され, 発生を助長する条件である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：やや多い	7月下旬現在, フェロモントラップへの誘殺数は水戸市(県予察圃), 笠間市(県予察圃), 鉾田市, 坂東市借宿で平年より多く, 土浦市, 龍ヶ崎市で平年よりやや多く, 坂東市富田, 筑西市で平年並である。 向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

## 防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第四世代幼虫を対象とした防除適期は、第三世代成虫の誘殺数がピークに達した日の直後(1～2日後)である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 表中の土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

※薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第四世代幼虫の予測防除適期

地点	第四世代幼虫の予測される防除適期 <sup>1)</sup>		
茨城町	8月 4日	～	8月 8日
笠間市(旧友部町)	8月 13日	～	8月 18日
笠間市(旧岩間町)	8月 13日	～	8月 18日
小美玉市	8月 12日	～	8月 17日
石岡市	8月 5日	～	8月 8日
土浦市	8月 12日	～	8月 17日
筑西市(旧下館市) <sup>2)</sup>	8月 8日	～	8月 13日
筑西市(旧関城町)	8月 5日	～	8月 8日

1) 予測した第三世代成虫の誘殺ピークの1～2日後とした。

2) 筑西市(旧下館市)は第一世代成虫の誘殺ピークから予測した。

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 8月1日から8月31日)

気象庁(7月30日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

#### [概要]

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 8月1日(土曜日)から8月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率80%

<2週目の予報> 8月8日(土曜日)から8月14日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 8月15日(土曜日)から8月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類\* (FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成27年4月28日発表)の防除所レポート参照